

郷土史への扉



前回は、大隅国の「国府」がなぜ霧島地域に置かれたのかについて述べましたが、今回は国府の中心施設である「国衙」、とりわけ大隅国の政治を行った「政庁」はどこにあったのかについて紹介します。

シリーズ大隅国を知る 4

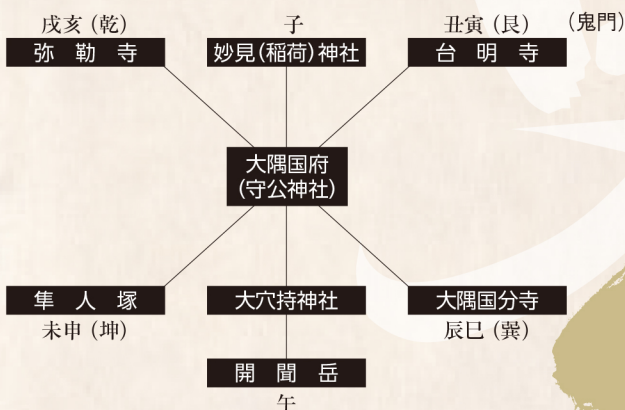
大隅国府はどこか？

一 国府はどこか？

国府の所在については、建国の記事が書かれている「続日本紀」には触れていませんが、平安時代中期に編さんされた『倭名類聚抄』の中には「久波々良国府」、平安時代末期に編さんされた『色葉字類抄』には「桑原国府 曾於府」、鎌倉時代中期に編さんされた『拾芥抄』には「曾於郡」と記されています。これは、大隅国府が桑原郡と曾於郡の郡境付近にあったことを表しています。

では、郡境はどの辺りにあったので

大隅国府と方位（風水）



しようか。延長五（九二七）年に編さんされた『延喜式神明帳』には神社の所在地が、鹿児島神宮は桑原郡、大穴持神社（国分広瀬）・韓国宇豆峯神社（国分上井）は曾於郡と書かれていることから、広瀬川（旧天降川）を郡境にしていたことが推測できます。

このように、大隅国府が国分平野にあったことは間違いないですが、その所在については、国分府中と隼人町真孝の2つの候補地があります。

二 大隅国府府中説

大隅国府が国分府中に置かれたとされる根拠としては、次のようなことが挙げられます。

- ①府中一帯から古墳・奈良・平安時代の土器が出土している。
- ②府中の近くに大隅国分寺跡がある。
- ③府中を中心として、東北（鬼門）の方向には台明寺が、北方には稻荷神社（旧妙見神社）が、南方に大穴持神社などがあり、古代の都市づくり（風水思想）にあった位置に神社仏閣がある。

※大隅国府と方位（風水）図参照

- ④府中の周辺に和歌で用いられる「歌枕」の場所が点在する。
- ⑤府中は北側に姫城山があり、東・西・南側は河川（天降川・手籠川）に囲まれ、当時の隼人族との関係（確執）を考えると天然の要害となっている。
- ⑥平成19年1月に、国分府中「気色の杜遺跡」から9世紀末から10世紀初頭のころの仮名墨書土器が出土した。

三 大隅国府真孝説

一方、大隅国府が隼人町真孝に置かれたとする根拠としては、次のようなことが挙げられます。

- ①国府の広さは6町（約700坪）四方とされているが、府中にはその広

さはない。

- ②歴史書に「桑原」と書かれている。
- ③真孝のコウは「コフ」すなわち国府を指す。
- ④奈良・平安時代の遺跡がある。

このように、大隅国府の所在については2つの説があり、現段階では、国分府中説の方が有力ですが、教育委員会としては、今回の建国1300年を契機に、大隅国府の所在や規模などを明らかにするために、発掘調査を実施していきたいと考えています。

（文責 鈴）

大隅国建国1300年 記念

大隅国は和銅6(713)年に建国され、その国府は霧島市にあったといわれています。今年は建国1300年を迎えます。そのことを記念して、さまざまなイベントを実施します。

■連続講演会 第5回講演会

- 日時＝5月18日（土）午後1時30分～3時
- 場所＝隼人農村環境改善センター
- 講師＝栗林文夫さん（鹿児島県歴史資料センター黎明館主任学芸専門員）
- 内容＝「鎮護国家と台明寺」
- 申込方法＝電話で。 ●申込期間＝5月17日（金）
- ◎ 文化振興課 ☎(42)1119